

京成沿線整備検討報告

市 川 市
平成 22 年 7 月

京成本線は、1915 年（大正 4 年）に押上～京成中山駅間が開通し、JR 総武線とともに、長年にわたり、市民の重要な交通手段として都市機能の役割を担っています。

その一方で、市の中央部を平面で横断していることから、多くの踏切が渋滞や事故発生の誘因となり、南北交通の遮断や公共交通機関(バス)の遅れ、排気ガスの増加などが生じております。

また、渋滞等により、クロマツのみられる閑静な住宅地に通過車輛が進入し、安全性や、狭隘道路等の防災面の問題も生じています。

このように「京成本線の立体化」と「京成本線沿線地域のまちづくり」は、本市の将来に向けて、避けて通ることのできない重要な課題となっています。

そこで、本市では昭和 62 年度より調査を開始し、平成 21 年の「市川市京成本線の立体化及び沿線まちづくりに関する有識者提言」に至るまで、市民を交えた懇話会やアンケート、有識者による委員会、市民意見交換会など、様々な手法により検討を実施してきました。

本報告は、これまでの検討内容や取り組みを踏まえて、平成 21 年度末（平成 22 年 3 月）時点での検討成果をまとめたものです。

目 次

1	立体化手法の検討区間	3
	区間設定	3
	【ボトルネック踏切及び問題となる踏切】	4
2	ルート設定	5
3	立体化案	6
3 - 1	立体化案の概要	6
	(1) 全線高架化	6
	(2) 全線地下化	7
	(3) 一部高架化	8
	(4) 一部地下化	9
	(5) 全線単独立体化	10
	(6) 地下・高架化併用	11
	(7) 国道14号下全線地下化	12
3 - 2	単独立体化案	13
	(1) 単独立体化に係る基本条件の整理	13
	(2) 単独立体化の検討結果	14
3 - 3	比較・評価	15
	(1) 評価項目	15
	(2) 評価結果	16
4	これまでの取り組みの概要	18
4 - 1	過年度検討経過	18
4 - 2	有識者委員会提言	19
4 - 3	市民意見	21
5	今後の対応	23
5 - 1	検討結果のまとめ	23
5 - 2	今後の対応	25